



建物外観（撮影：エスエス東京）

建築概要

建設地：東京都港区東新橋2丁目
 建築主：富士ソフト株式会社
 設計：株式会社竹中工務店
 施工：株式会社竹中工務店
 建築面積：約 2,128.67m²
 延床面積：約 20,215.95m²
 階数：地上9階、地下1階
 高さ：42.45 m
 構造種別：SRC・S・RC造

選評

浜松町駅から新橋方面へ向かうと、雑居ビルを抜けた先に突如イタリア街が現れる。ポツ窓のある装飾的な壁面が並ぶ中、本建築は千鳥状に積まれたPCaブロックの隙間が開口を形成し、下層部の連続アーチがそれを支える構成となっており、一際存在感を放っている。

汐留イタリア街の外観規制、建築主の要件、下層部の災害対策といった厳しい制約の中で、本建築は免震構造を活かし、「現代の組積造」という独自の解決策を提示した。その結果、制限を逆手に取った優れた建築へと昇華しており、賞賛に値する。また、省人化や低コスト化、ライフサイクルCO₂削減など、業界や環境課題にも応答し、免震建築の新たな可能性を示唆する点も高く評価できる。

一方で、下層部のアーチ空間を街へ開く意図や高潮対策を考えると、免震層の位置には若干の疑問が残る。しかし、それを踏まえても、本建築はイタリア街の表層的模倣にとどまらず、組積造とコンクリート・アーチを介して古代ローマ建築との対話をも試みた、意欲的な作品であり、作品賞にふさわしいものと高く評価できる。（小林 恵吾）

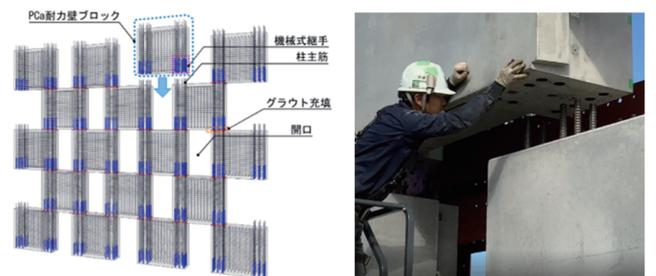
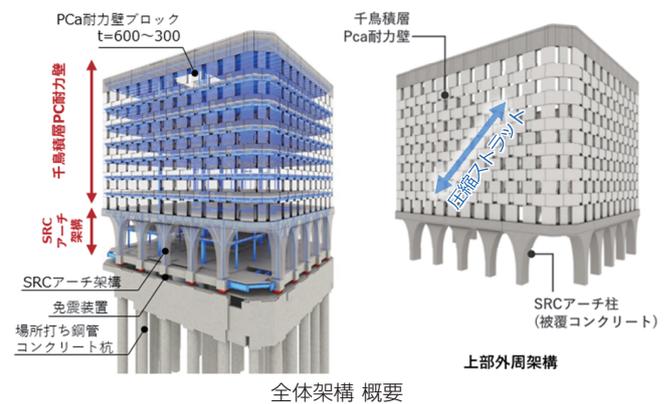
建築主：富士ソフト株式会社
 設計者：株式会社竹中工務店 三橋幸作、田井 暢、小田島暢之、和田純一、平尾雅之
 施工者：株式会社竹中工務店

免震・制振化した経緯及び企画設計等

本建物は「汐留イタリア街」に位置するデータセンター対応型オフィスビルである。イタリア街のデザインコードに対し、「現代の組積造」を設計コンセプトとし、新規開発した「千鳥積層プレキャスト(PCa)耐力壁」を外殻架構とすることで、建築・構造・設備をインテグレートした建築を目指した。千鳥積層PCa外殻架構の高い水平剛性と免震構造を合わせた高性能免震により、汐留という超軟弱地盤地域で、データセンター対応として、極稀地震時の水平応答加速度を200gal以下に抑えた。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

「千鳥積層PCa耐力壁」は、水平力に対し千鳥状に配置された壁全体で斜めの圧縮ストラットを形成することで、建物全体に高い水平剛性を与える事ができる架構である。PCa壁同士の接合は、免震構造の採用により、納まりを最大限簡略化することが可能となった。「千鳥積層PCa耐力壁」の外殻架構と免震構造の組み合わせは、高い構造性能だけでなく、高密度なコア計画、高い環境性能(ZEB Ready及びCASBEE Sランク取得)、高い施工効率などを同時に実現しており、建築・構造・設備・施工の全てが高度に統合された新たな建築システムである。



プレキャスト耐力壁の接合要領